

建設省土木研究所 正員 ○安 中 德 二
タ タ タ 及 川 直 世

1. はじめに

下水処理場に流入する下水の水量及び水質は一定ではなく、1日のうちで時間によって変化することはよく知られている。下水の発生が人の活動と直接結びついたものであるため日変化があるのは当然であるが、処理の計画設計を行なう上で、さらに、適正な運転操作を行なう上で流入下水量及びその水質、ならびに変動の状態を把握しておくことは非常に重要なことであると思われる。流入負荷量は、処理場の規模により、また、工場廃水の混入あるいは、廻りの投人などのように家庭下水以外のものが流入する場合などによく、その形態は異ってくるものであるが、今回、全国の処理場を対象に流入負荷量についての調査を行ない若干の考察を行な、たので報告する。流入負荷量は、流入下水の流量およびBOD、SSを1～3時間毎で測定することにより算出した。また計算に用いた処理人口、面積等は42年の値を用いた。

2. 流入負荷量の変動について

流入下水の負荷の変動は、処理の効率に影響するため、施設の設計にあたっては、設計上の数値と変動のどの位置にとるかが問題となる。現在は、日平均(汚水量)値を基準にとるのが一般的であるため、ここでは、変動の大きさをつかむための一つの示標として、流入負荷の日平均値と日最大値の比を考えることにし、これを流入負荷変動比($= \frac{\text{日最大値}}{\text{日平均値}}$)とする。図-1はこの流入下水量変動比と処理人口の関係

図-2はBOD負荷変動比と処理人口の関係を示したものである。(処理人口は処理場の規模表わす示標として用いた)。一般に流入負荷の変動比は、流達時間のづれあるいは生活形態の差などから大都市における処理場ほど1に近く中小都市あるいは田舎などの小規模な処理場ではこれより大きな値を示すと考えられるが、図1、図2からもその傾向がはつきりとうかがえる。

流入下水量変動比について考えると処理人口が20千人以上の場合で1.5以下、これ以下の場合は1.5以下であることがわかる。(図)

図-1 流量変動比と処理人口

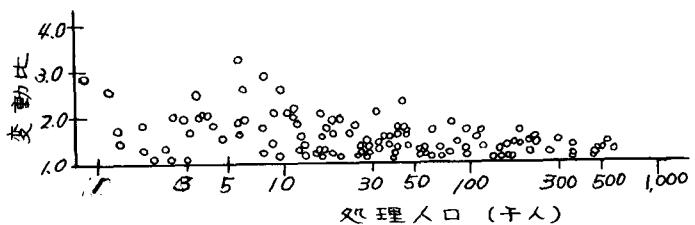
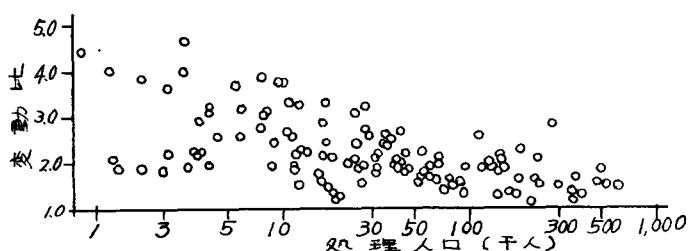


図-2 BOD負荷変動比と処理人口



動比が1に近いケースが非常に多いのは、ポンプの定量運転を行なっている処理場が多いためと思われる)。しかししながら、このときのBOD負荷変動比は流量のそれにくらべてかなり大きく、図-2に見られるごとく小規模な処理場(処理人口20千人以下)では、平均3.5(最大で4.6)処理人口20千人以上の場合でも2.0近い値を示してあります(負荷についても同様の結果が得られた)。これは、一般に水質のピークが流量のピークに一致するためであるが、処理場に流入する負荷量は、かなり大きな変動をしていることがわかる。

現在の設計は、日平均流量を標準に行なわれており、変動比で1.62~2.15程度を見込んでいるが、これは、量的な変動のみを考えているものであり、その意味では、ほゞ現況に近いものと考えられるが、質的なものを加味した負荷量の変動は、これよりかなり大きいため、設計および管理にあたっては、この点を考慮する必要があるのではないかと思われる。

3. 流入下水の人口当量について

処理場に流入する負荷量は、家庭下水によるものの他に、工場廢水の混入、あるいは、し尿の投入、合流式下水道の場合は地表の洗い水などによるものがある。それぞれの排水量の人口換算当量を知っておくことは、設計計算上便利であるが、ここではその分離が行なえなかつたので、分流式下水道で工場廢水が混入しておらず、水洗化率が100%の処理場を基準で家庭下水の人口当量を算出してみた。なお人口当量の算出は、次のようにして行なった。

$$BOD(SS) \text{ 当量 } (\text{g}/\text{人}/\text{日}) = \text{ネットに流入する } BOD(SS) \text{ 負荷量 } (\text{g}/\text{日}) / \text{現在処理人口 } (\text{人})$$

家庭下水の負荷量は、その地域の開発程度に關係すると思われるため、開発程度を表わす指標として処理場が存在する都市の人口密度をとり、上のようにして求めた人口当量との關係を示したのが図3,4,5である。図に見られるごとく、人口当量と人口密度の關係は、この範囲では、ほとんど見ることはできなかった。これらの値を平均してそれぞれの人口当量を求めると、 $BOD \text{ 当量} = 39.5 \text{ g}/\text{人}/\text{日}$ 、 $SS \text{ 当量} = 41.8 \text{ g}/\text{人}/\text{日}$ 、排水量 $263 \text{ l}/\text{人}/\text{日}$ となり、洞澤氏が住宅団地で得た値(BOD: 35.4 g; SS: 36.9 g/人/日)に近い結果が得られた。^{*}

図-3 BOD人口当量と人口密度

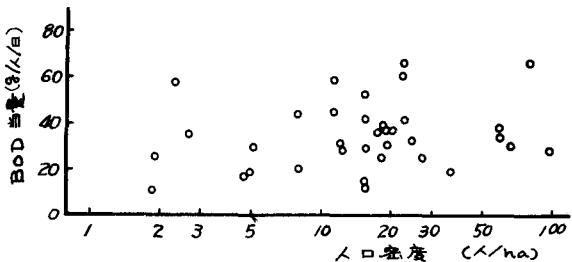


図-4 SS人口当量と人口密度

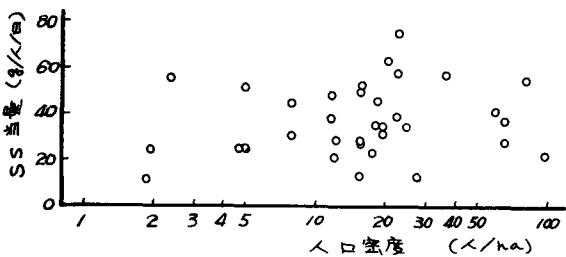


図-5 1人当たり排水量と人口密度

